

# 第1回 「赤ちゃんフォーラム」 開催

言語情報文化研究施設主任  
佐藤久美子

## フォーラム開催の背景

言語情報文化研究施設では、玉川大学二一世紀COEプログラムの研究・教育活動の一環として、乳幼児のこ

とばの獲得・学習・発達の仕組みについて考える、第一回「赤ちゃんフォーラム」

を八月六日

(金)、大学研

究棟にて開

催致しました。

本フォー

ラムはお茶の

水女子大学CO

Eプログラムとの

共催で、研究者や教育

関係者だけでなく、一般の

方々も対象にした研究交流の場を提

供する意図で実施されました。当日

は、他大学の研究者や学生、企業・

研究所の研究者、出版関係者など約

七〇名と多数参加があり、大変盛況

でした。

## 「赤ちゃん

## ラボ」開設

「赤ちゃんフォ

ーラム」を主催

した言語情報文

化研究施設は、

平成一四年に設立され、言語・認知

研究をはじめ、その成果を生かした

二一世紀に適応する言語文化教育の

研究開発と発信を行っています。

その一環として、乳幼児の言語発

達について研究する「赤ちゃんラボ」

を開設。玉川大学の他、慶応義塾大

学、東京大学、東海大学の研究者が

参加し、現在一七〇人以上の乳幼児

および玉川学園幼稚部の児童を対象

に調査研究を行っています。

## 議論が活発に行われた

## フォーラム

第一回目の本フォーラムでは、こ

とばの発達研究の分野では世界的に

## 学術研究所

全人教育研究施設

ミツバチ科学研究施設

知能ロボット研究施設

量子情報科学研究施設

脳科学研究施設

応用生命科学研究施設

菌学応用研究施設

人文科学研究施設

言語情報文化研究施設

心の教育実践センター

著名なロベルタ・ゴリンコフ教授と  
キャシー・ハーシューパセック教授  
をアメリカ合衆国よりお招きし、講  
演をしていただきました。

ゴリンコフ教授は、子どもが生ま  
れてから二歳になるまでに、物の名  
称(名詞)をいかに学習するかについ  
て解説されました。赤ちゃんが最初  
にことばを学習する時にどのような  
手がかりを使うのか、ことばの学習  
が進み語彙が増えるにつれて、使用  
可能な手がかりがどのように変化し  
ていくのかを、身振り手振りを入れ  
ながら熱心に語られました。

また、ダウン症など言語発達が遅  
れる子どもが使う手がかりが、通常

# 研究所だより



→第1回目のフォーラムの司会を務めた筆者

←名詞の学習について表情豊かに解説するデラウェア大学ロベータ・ゴリンコフ教授

↓約70名の聴衆。質疑応答も活発だった



の発達をしている子どもとどのよう  
に違うのかというお話もあり、言語  
発達のもっとも初期の段階で、赤  
ちゃんがどのようにことばを世界と対



←動詞の獲得について講演するテンブル大学キャシー・ハーシューバセック教授



応させていくのかという問題につ  
いて説明してくださいました。  
ハーシューバセック教授は、こ  
とばを話し始める時期の子どもが、動  
作を表すことば(動詞)をどのように  
して学習するのかを解説されました。  
赤ちゃんはかなり早い時期から動詞  
を発話しますが、実は動詞を学習す  
るのは容易ではありません。二歳に  
もなると、新しい名詞を教えられ  
ると即座にその意味を自ら考え、語を  
容易に学習しますが、新しい動詞は  
いくら教えてもなかなか使うことが  
できません。  
非常に早い時期からいくつかの動

詞を産出するにもかわらず、なぜ  
新しい動詞を学習するのが難しいの  
か、そのパラドックスを巧みな実験  
手法で鮮やかに説明し、さらに幼児  
期までに子どもが学習する動詞はど  
のような性質のものか、丁寧に解説  
してくださいました。

講演は英語で行われましたが、赤  
ちゃんラボの研究者で、二人の講演  
者の共同研究者でもある慶応義塾大  
学の今井むつみ助教教授による日本語  
での解説が適宜加えられ、学生や専  
門外の方々にもわかりやすかったと  
好評でした。講演後の質疑応答も、  
予定時間を超過するほど活発に行わ  
れました。最後に、お茶の水女子大  
学の内田伸子教授が指定討論者とし  
ていくつかの重要なポイントについ  
て示唆・質問をされ、議論がいっそ  
う充実したものとなりました。  
このフォーラムは今後も毎年開催  
を予定しており、学生・研究者のみ  
ならず一般のお母様たちにもご参加  
いただければと期待しております。